

[別紙2]

審査の結果の要旨

氏名 山村 高淑

本研究は、文化の保全と経済成長とを結合するひとつの試みが「地域社会の自律的な活動」——伝統的な都市・集落空間やそこでの暮らし・民俗を継承している人々、あるいは現代的に共有している人々が、自ら主体的にこうした文化資源を活用した経済活動を行ってこれを維持管理すること——を通した観光開発の概念であるとの前提のもと、地域の民俗や伝統が現代に継承されている中国雲南省麗江歴史都市ならびに周辺伝統的集落をケーススタディ地区として、大きく以下の2点について分析している。

- 1) 地域開発政策の下に急激な観光地化が進行している、中国雲南省麗江の旧市街地（以下、旧市街地）およびこれに隣接する伝統的集落である黄山郷白華行政村（以下、白華村）をケース・スタディとして、文化資源を活用した観光を成立させる背景、および文化観光開発が地域に及ぼす空間的、社会的インパクトを分析し、地域が自律性を発揮する上での制約要因となっている社会的メカニズムの課題。
- 2) 上記2地区の具体的な観光産業に着目したケース・スタディを通して、自律的な活動が展開することにより、既存の文化資源が保存、再構築され、それに基づく観光産業を地域社会が創出していくプロセスを検証し、持続可能な観光開発を達成する上で地域社会に求められる要件。

その結果、観光開発をきっかけとした地域のアイデンティティの再認識が見られ、特に旧市街地では、新旧住民が混住する環境のもと、地域固有の技術体系をベースに、多様な構成員が自らの独創性を融合させ、新たなアイデンティティが生まれつつあることが確認された。このプロセスは、多様な属性を有する住民が混住するという都市的環境の創造的側面が効果的に作用し、touristic culture の創造に結びついた点で高く評価された。しかし、旧市街地では伝統的な地域社会が崩壊していることもあり、当事者間の組織化は進まず、アイデンティティの強化に至るには不十分な状態であった。

その一方で、伝統集落においては、伝統音楽をはじめとする既存の文化資源が観光資源として再評価され、問題は含みながらも、ホスト社会の自律的な活動のもと文化観光産業を創出・発展させつつあることを確認した。そしてその背景として、当事者組織の組成が自律的に進んでいる点を指摘している。

また技術体系の再構築という観点から、両地区で、第一レベルの技術体系をベースとし

た *touristic culture* の創造が、既存産業との新たな連関を生み、地域全体の生産性の向上へ有効に貢献していることを示した。なお、特に伝統的社会構造が著しく衰退している旧市街地においては、*touristic culture* の質を担保するために、行政等の支援による第一レベルの技術体系の保存が必要であることを指摘している。

旧市街地においては伝統的住宅建築に対する厳しい建て替え制限や、高額の修築費用、生活の不便などが背景となり、本来の住民の旧市街地に住み続けるインセンティブが低下しつつある点を示した。この点では政策上、住民の「生活の質」に対する配慮・計画思想が必要となることを指摘した。また、旧市街地では観光地化以前より既に伝統的な社会組織が崩壊しており、さらに観光地化に伴う急激な社会構造の変容が生じていることも明らかになった。こうした状況下、旧市街地が混住に特徴付けられる都市的環境を創造的に作用させ、文化観光を自律的に創出していくためには、流入人口を含めた地域社会の再定義とコミュニティの再生、当事者の組織化が重要であることを指摘している。

以上のような議論を受け、結論として、観光開発においては住民の主体性やアイデンティティの強化がその基礎として重要であるが、こうした観光開発に対する住民の意欲が組織化され、政策的に支援される環境こそ創出されるべきであることを指摘している。さらにそのためには、観光開発に関わる様々なアクターの役割と、新しい動向について政策担当者が認知し、地域社会の自律的な活動を支え、その拡大のための制度化に努めるべきである点を提言した。そして、こうした地域の発展段階に応じたそれぞれのアクターの柔軟な役割調整が、地域社会自らを開発主体として形成していくプロセスの本来の意味であると結論づけている。

本研究は、中国の世界遺産都市において急速な観光化による地域社会の変容の実態とその課題をはじめて詳細に分析し、その実証分析を踏まえて、当該地域のみならず広く同様な課題を抱える地域に対してきわめて有益な政策提言をおこなっており、優れた学術的価値を有している。

よって本論文は博士（工学）の学位請求論文として合格と認められる。